

授業科目	障がい者心理特講 Disabled Persons Psychology			担当教員	柳 智盛		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2年 前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>本講では、様々な障がいによって人間の行動やこころの働きに与える影響及び諸問題について心理学の視点から考えていくこととする。その際に、様々な障がい特性の理解と心理的影響に関する高度な知識・技術・論理等を獲得した上で、障がい児・者に対する援助・支援方法を探究する。特に、近年注目を浴びている発達障がいについての理解と援助の方法に関する文献研究を通して、自閉症スペクトラム障がいや学習障がい、ADHD 等の発達障がい児・者の行動や心の働きについての自身の考え方を論理的に展開可能な能力を身につけることを目標とする。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	社会福祉の専門家として、様々な障がい児・者の行動やこころの働きに対する理解の必要性を認識できる。			・授業態度及び参加度	20%		
思考・判断	障がい児・者の心理的な諸問題に対する自身の考え方を論理的に展開可能な能力を身につけることができる。			・課題発表での質疑応答	20%		
技能・表現	様々な障がい特性に対する理解と心理的影響について正確に説明できる。			・課題発表内容 ・課題発表での質疑応答	20% 10%		
知識・理解	障がい児・者の置かれた状況や支援のあり方について理解し、正確に説明できる。			・課題発表内容 ・課題発表での質疑応答	20% 10%		
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>講義時には、割り当てられた課題発表内容の評価を40%とし、その課題発表での質疑応答の受け答えに対する評価を40%とする。また、授業態度及び参加度において講義内容に対する関心・意欲・態度などを20%とし、課題発表等もあわせて総合的に評価する。</p>							
授業の概要							
<p>本講では、近年「国際障害分類(ICIDH)の障害構造モデル(1980)」から「国際生活機能分類(ICF)の生活機能構造モデル(2001)」へと基本的な考え方が変化してきていることに対して、社会福祉の専門家として「障がい」という概念と「障がい児・者のこころ」をどうとらえ理解しているのかを考えていく。また、様々な障がいによって人間の行動やこころの働きに与える影響及び諸問題について心理学の視点から考えていくこととする。その際、様々な障がい特性の理解と心理的影響に関する高度な知識・技術・論理等を獲得した上で、障がい児・者に対する援助・支援方法を探究する。</p> <p>講義の進め方としては、前半は「障がい」の基本的な概念や心理的な影響について講義を行い、後半は障がい児・者の心理的な諸問題と関連する関心テーマについての課題発表及びディスカッションを行う。課題発表の際には自身の考え方を論理的に述べることを求める。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。毎回の授業で使用するプリントを配布する。 参考書：適宜参考書及び文献を紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>現代社会における障がい児・者に関わるトピックや研究動向に関心を持ち、それに対する社会福祉の専門家として自身の考え方をしっかり持って欲しい。さらに、障がい児・者の立場になってその「こころ」を理解しようとする姿勢を持って臨んで欲しい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	講義の概要を説明し、講義のスケジュールを確認する。 課題発表のスケジュールと用いるテーマ・文献を決定する。	復習：関心テーマ・文献を考える。
2	障がい概念の理解	障がい概念のとらえ方とその変遷について学び、ディスカッションを行う。	予習：「障がい概念」について考える。 復習：自分の考えをまとめる。
3	障がいのある人の心理①	障がい及ぼす心理的影響について学ぶ。	予習：障がいの影響を理解しておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
4	障がいのある人の心理②	障がいの種類や程度は多様であるが、ここでは障がいの種類と心理的特性、心理的問題について学ぶ。	予習：障がいの種類等を理解しておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
5	障がいのある人の心理③	障がいの受容について、家族にとっての受容も含めて学び、受容へ向けての支援を考える。	予習：障がいの受容の難しさを理解しておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
6	障がいのある人の心理④	適応と適応機制について学ぶ。障がいのある人の社会参加を阻むバリアについても考えていく。	予習：人が環境に適応することの諸問題を考えること。 復習：上記のテーマの振り返り。
7	障がいのある児・者の理解①	先天性の身体障がいや知的・発達障がい児について、障がい及ぼす発達や日常生活への影響を考える。	予習：様々な障がいについて理解しておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
8	障がいのある児・者の理解②	発達障がいの特性とその対応について学び、日常生活支援やコミュニケーションについて考える。	予習：発達障がいの特性について事前に理解しておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
9	家族への支援①	先天性の障がいのある人の家族の障がいの受容とその過程での援助について学ぶ。	予習：先天性障がいのある人の受容について理解しておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
10	家族への支援②	家族の介護力の評価やレスパイト、支援について学び、家族への関わりについて考えていく。	予習：家族の関わりの問題について調べておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
11	連携と協働①	行政・関係機関、自立支援協議会との連携について学び、地域におけるサポート体制を考える。	予習：連携の意義について考えておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
12	連携と協働②	保健医療職種や他の福祉職種との連携について、事例を通して学んでいく。	予習：諸機関との連携のあり方についてまとめておくこと。 復習：上記のテーマの振り返り。
13	課題発表①	障がい児・者の心理的な諸問題と関連する関心テーマについての課題発表を行う。	予習：課題発表資料を作成する。 復習：課題発表の際の討議内容について整理する。
14	課題発表②	障がい児・者の心理的な諸問題と関連する関心テーマについての課題発表を行う。	予習：課題発表資料を作成する。 復習：課題発表の際の討議内容について整理する。
15	まとめ	「障がい」という概念と障がいのある人の心理を中心に本講義全体の総括を行う。	予習：講義全体について整理する。 復習：講義全体の振り返り。